



1 計画の目的

この計画は、史跡山居倉庫の大切な価値や歴史を来訪者にわかりやすく伝え、貴重な文化財を守りながら次の世代へ受け継いでいくための整備の考え方や進め方をまとめたものです。

また、「史跡山居倉庫保存活用計画」で示した方針に基づき、具体的な整備方法や事業の進め方を定め、山居倉庫の保存・活用・整備を計画的に進めていくことを目的としています。

2 本質的価値

史跡山居倉庫は、明治時代に建てられた米の倉庫や管理施設が今も良好に残り、戦後まで実際に米を保管する倉庫として使われ続けてきた全国的にも貴重な史跡です。倉庫だけでなく、米を運んだ新井田川や当時整備された敷地の景観も残されており、当時の様子を今に伝えています。

山居倉庫には、国の史跡に指定された理由となる、2つの大切な本質的価値があります。

本質的価値 1

山居倉庫は、庄内地域の米づくりの発展を支えた重要な施設です。庄内地域では江戸時代から米づくりが盛んになり、明治時代には農業技術の向上によって、さらに多くの米が生産されるようになりました。山居倉庫では、米の品質を厳しく管理していたため、農家はより良い米づくりに取り組むようになり、庄内米の品質向上につながりました。このように山居倉庫は、庄内地域の米作や農村社会の発展に大きな役割を果たしました。

本質的価値 2

山居倉庫は、日本の米の流通や経済を支えた重要な施設でもあります。明治26年に「酒田米穀取引所」の倉庫として建てられ、米を長期間品質を落とさずに保管するために、室内の温湿度を一定に保つ土蔵造や置屋根、西日を防ぐケヤキ並木など様々な工夫が取り入れられました。また、米の価値を保証する「米券」を発行する倉庫として高い信頼を得て、日本銀行の指定倉庫にもなりました。現在も建物や景観が良好に残されており、近代日本の米の流通や経済の歴史を伝える貴重な遺産となっています。

3 基本理念・基本方針

山居倉庫を取り巻く現在の状況を踏まえ、この計画では山居倉庫を大切な財産として守りながら、地域の魅力ある資源として活かし、未来へ受け継いでいくこととし、「酒田の歴史文化のシンボル 発展とともに未来へ」を基本理念として掲げました。

また、この理念を実現するために、3つの柱と6つの基本方針を定めています。

これらの基本理念や基本方針に基づき、山居倉庫を中心に、酒田の米の流通や歴史に関わる市内の文化財もあわせて活用しながら、山居倉庫の価値や歴史を「ストーリー」としてわかりやすく伝えていくための全体計画としています。

基本理念		
酒田の歴史文化のシンボル 発展とともに未来へ		
基本理念		基本方針
歴史文化	酒田の象徴として守り伝える歴史・文化資源	①整備事業の信頼性確保のための調査研究及び修復・維持管理による史跡の構成要素の保存と次世代への継承資源
		②安全・安心な敷地内環境・景観の整備及び保全
文化観光	酒田のまちづくりと地域の活性化へつなぐ文化観光資源	③市民協働・地域との連携推進
		④史跡の活用による好循環の実現
地域伝承	快適に史跡に親しみ学べる地域資源	⑤周辺施設・歴史関連施設との連携と来訪者の回遊性向上
		⑥史跡の情報の積極的公開・広報

“ストーリー” i	“ストーリー” ii	“ストーリー” iii
史跡指定地内の歴史的建造物の様式やケヤキ並木を含めた配置構成の特徴などから分かる、史跡が語るストーリー。	史跡指定地の護岸や隣接する新井田川・橋、酒田港などから分かる、景観が語るストーリー。	市内に残る関連文化財や米の生産・流通を象徴する水田・鉄道などから分かる、酒田のまちなみが語るストーリー。

4 事業計画

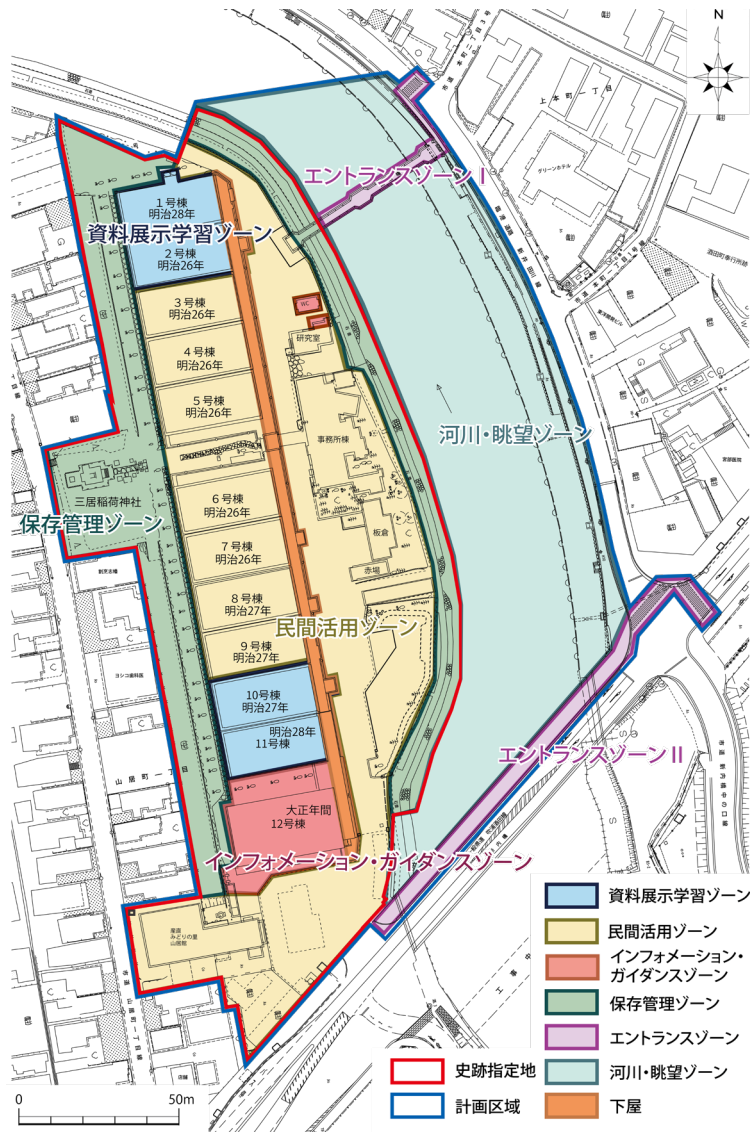
		令和8～12年度				令和13～17年度				
		調査・計画	設計	工事	公開・運用	調査・計画	設計	工事	公開・運用	
倉庫群	倉庫(1号棟)	建築物状況調査			外観修復工事	資料展示学習施設展示計画・耐震補強設計	資料展示学習施設整備設計・耐震補強工事	資料展示学習施設実施設計	資料展示学習整備工事	資料展示学習施設公開
	倉庫(11号棟)	・展示計画 ・耐震補強設計	・整備設計 ・耐震補強工事	実施設計	整備工事	公開				
	倉庫(12号棟)	・展示設計 ・耐震補強設計 ・一部耐震補強工事	・基本設計 ・耐震補強工事	実施設計	整備工事	公開				
	倉庫群(2・10号棟)	建築物現況調査		外観修復工事(10号棟)	外観修復工事(2号棟)		保存展示施設公開準備修繕	下屋からの保存展示施設公開		
	倉庫群3～9号棟	建築物現況調査		外観修復工事(6～9号棟)	外観修復工事(3～5号棟)					
	下屋	耐震補強設計			耐震補強工事(6～10号棟)	耐震補強工事(1～5号棟)	公開準備修繕	下屋公開		
	建築物群	・事務所棟 ・研究室棟 三層稲荷神社	建築物現況調査	研究室棟トイレ設計	研究室棟トイレ改修					
設備		水道管更新				既存公衆トイレ解体撤去工事	放水銃設備整備工事			
植栽・外構	ケヤキ並木	樹勢回復実施設計	第2期工事	第2期養生		第3期工事	第3期養生	第4期工事	第4期養生	
	外構		サイン・ベンチ・広場設計	サイン・ベンチ整備工事	・広場整備工事 ・バリアフリー化工事(5・6号棟の間)			雨水排水工事検討	雨水排水工事設計	雨水排水工事
運用	民間活用(3～9号棟・事務所棟・研究室棟)	民間活用ガイドライン作成 適宜試験運用(屋外含む)	民間活用検討			民間活用検討				

5 地区区分

史跡山居倉庫の整備を進めるにあたり、史跡内は役割に応じて大きく4つのゾーンに分けて整備を行います。

また、1号棟から12号棟の東側に続く「下屋」については、複数のゾーンに関わる重要な部分であるため、建物を大切に保存しながら、来訪者が見学しやすい動線となるよう活用方法を検討します。

さらに、史跡の周辺についても、山居倉庫の立地や景観を理解するうえで重要な場所として位置づけ、入口となる2つのエントランスゾーンや、新井田川や周辺の眺望を活かすゾーンを設定し、一体的な整備を進めます。



ゾーン名		機能の説明	主な項目
史跡指定地内	資料展示学習ゾーン	山居倉庫の歴史や価値を学べるゾーンです。展示資料や解説パネルで山居倉庫を紹介するほか、当時の倉庫の様子を見学できる施設を整備します。また、小中学校の学習、高校・大学との交流、市民の生涯学習の場として活用し、地域や世代を超えた交流を深めます。	・資料展示学習施設、体験学習施設 ・ベンチ ・防犯灯、歩行補助照明
	民間活用ゾーン	民間事業者の活用によって、観光の魅力向上や市民利用の促進を図るゾーンです。建物を修復しながら大切に保存し、史跡の価値を損なわない範囲で、民間企業などによる活用を進めます。	・民間による内装整備 ・総合案内板、解説板、眺望サイン ・ベンチ ・防犯灯、歩行補助照明 ・チェーン柵 ・上下水道、電気設備
	インフォメーション・ガイダンスゾーン	山居倉庫全体の案内や酒田市内の観光情報を提供するゾーンです。観光客や市民が気軽に立ち寄れるよう、休憩スペースやトイレを整備し、利便性を高めます。また、民間活用や交流を通じて、山居倉庫の魅力を感じられる場として活用します。	・総合案内所 ・ガイダンス施設 ・トイレ ・総合案内板、解説板 ・防犯灯、歩行補助照明
	保存管理ゾーン	山居倉庫らしい景観を未来へ引き継ぐためのゾーンです。ケヤキ並木や神社、石垣などを適切に維持管理し、必要な修復を行いながら継続的に保存していきます。	・解説板、眺望サイン ・雨水排水設備 ・ベンチ ・防犯灯、歩行補助照明
史跡指定地外	エントランスゾーン	山居倉庫への入口となるゾーンです。山居橋を「エントランスゾーンⅠ」、新内橋を「エントランスゾーンⅡ」と位置づけ、来訪者を迎える空間として整備します。	・眺望サイン
	河川・眺望ゾーン	新井田川や周辺景観を通して、山居倉庫の立地や特徴を感じられるゾーンです。散策しながら景観を楽しむよう、眺望や見学ができる環境を整備します。	・見学用眺望場所 ・眺望サイン

6 公開・活用

1号棟・2号棟、10号棟から12号棟、板倉・赤場については、酒田市が中心となって整備を行い、見学や活用ができるようにしていきます。

また、3号棟から9号棟、事務所棟、研究室については、民間事業者による活用も取り入れながら、公開や活用に向けた整備を進めます。

1号棟から12号棟をつなぐ下屋は、来訪者が雨天時などにも安全に見学できる通路として活用することを基本とします。ただし、民間事業者が活用する場合には、見学者の通行に支障がない範囲で利用できるようにします。

対象	整備概要
建築物内部	整備中は、酒田市が公開期間や見学人数を限定しながら、山居倉庫の内部公開を行います。建物の修復や適切な保存管理を進め、大切な文化財を守っていきます。将来的には、民間事業者による倉庫群の活用も目指します。倉庫が持つ「低温で保管できる機能」を活かしながら、歴史的価値を守った活用を検討していきます。また、耐震診断の結果により補強が必要と判断された場合は、活用方法に応じて酒田市と民間事業者が協議し、耐震補強工事を行います。 【活用例】 イベントスペース、飲食や食品販売、レストラン、宿泊施設、スポーツ・健康関連施設など。
下屋	下屋は、倉庫群を見学するための通路として活用します。下屋から倉庫内部を見学できるようにするほか、雨や雪の日の通路や、一時避難場所としても利用します。耐震診断の結果、補強が必要となった場合は、利用方法に応じた耐震補強工事を行います。
屋外	米を保管していた倉庫やケヤキ並木、西側石垣などを巡りながら、山居倉庫の歴史や空間の特徴を感じられる散策環境を整備します。また、敷地南東部の広場はイベント広場として活用し、倉庫群と一体となったにぎわいづくりを進めます。 【広場の活用例】 マルシェ、野外レストランイベント、プロジェクションマッピング、スポーツ・健康イベントなど。



史跡山居倉庫整備基本計画 概要版

発行 令和8年

編集 酒田市企画部 文化政策課

〒998-8540

山形県酒田市本町2丁目2番45号

TEL 0234 (24) 2994

FAX 0234 (26) 6482



計画書本編はこちらから